

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(6/22)

一部修正(R5/1/20審査会合)

【薄片試料全体の観察結果】

○作成した薄片試料全体を観察した結果、本試料は、斜長石、岩片、石英、少量の輝石及び角閃石から構成され、軽石は認められない。

【白色粒子に関する観察結果】

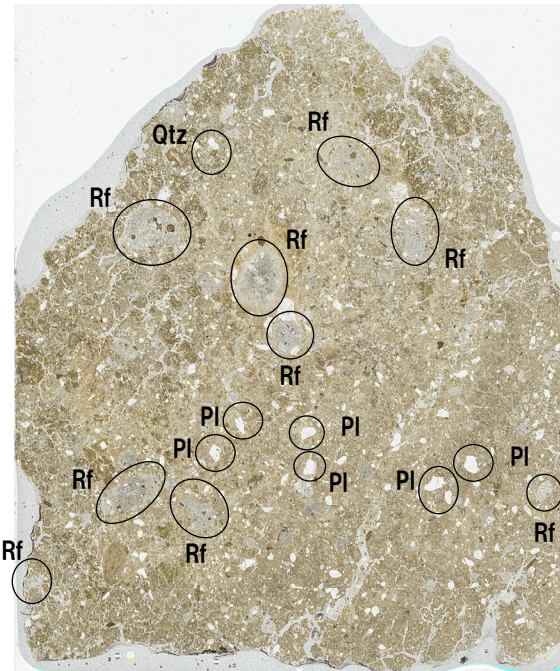
○薄片作成前試料の観察面において確認された白色粒子と対応する粒子を対象に観察を行った結果を次頁～P367に示す。
○観察の結果、柱状図記事に“軽石片”と記載がなされている粒子は、岩片又は斜長石であると判断される。

Rf:岩片
Pl:斜長石
Qtz:石英



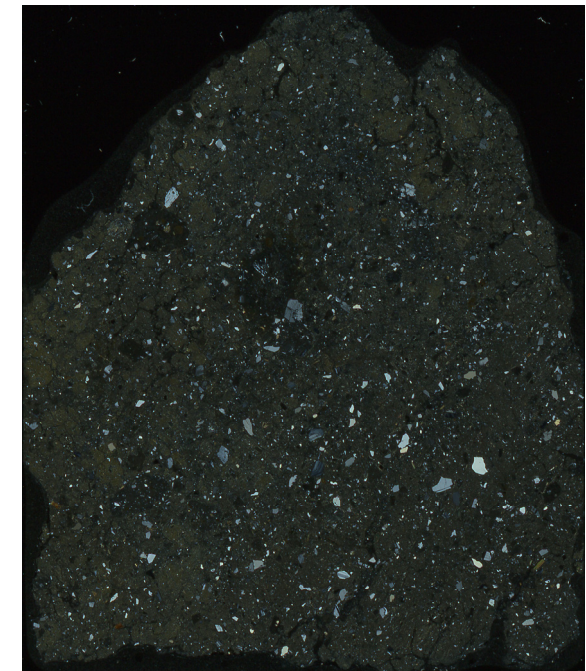
オープンニコル

10mm



オープンニコル

10mm



クロスニコル

10mm

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(7/22)

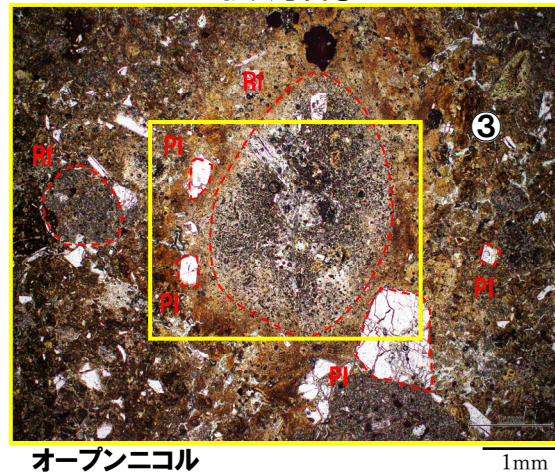
再掲(R5/1/20審査会合)

Rf:岩片
Pl:斜長石

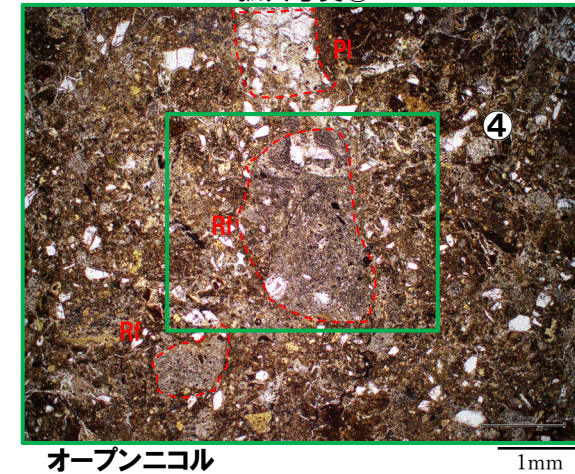
- 拡大写真①の約0.4cm以下の白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。
- 拡大写真②の約0.3cm以下の白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。



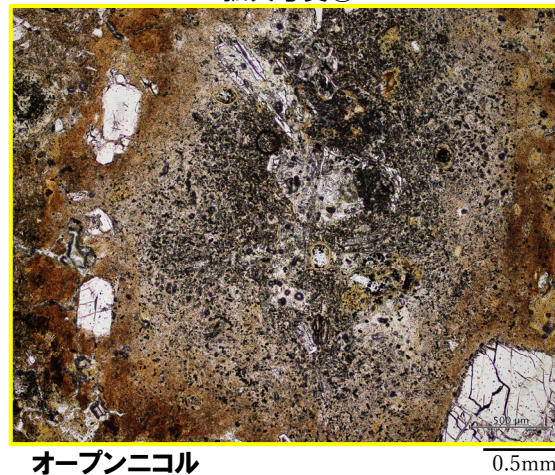
<拡大写真①>



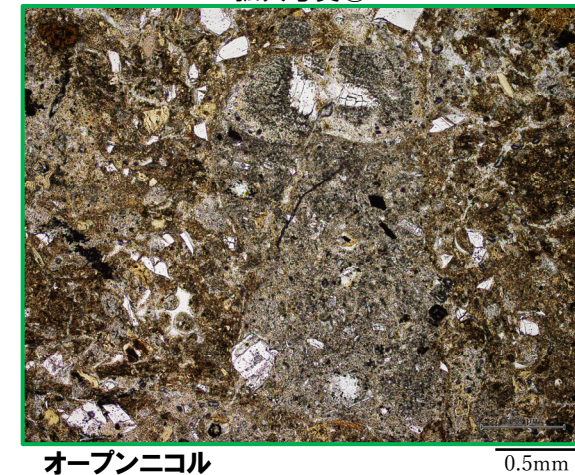
<拡大写真②>



<拡大写真③>



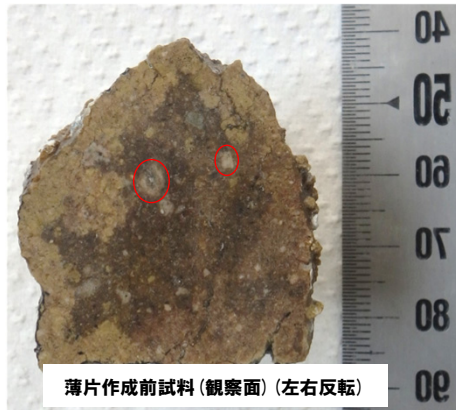
<拡大写真④>



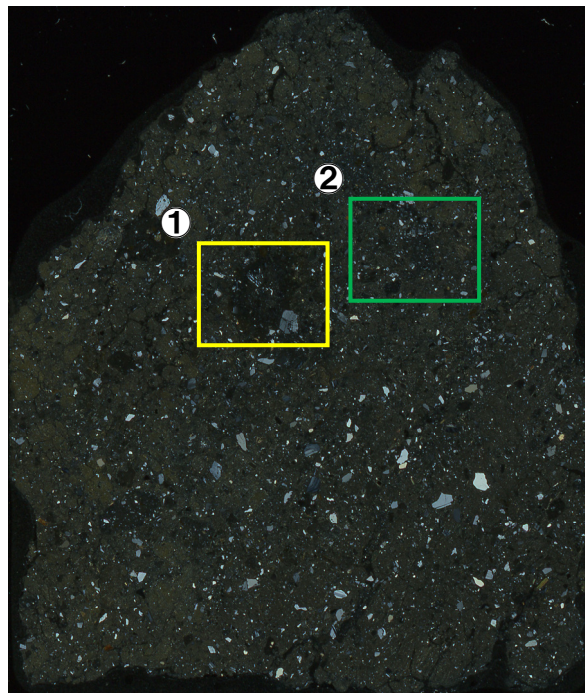
1. 4 【敷地近傍(Ⅲ)】積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング) (8/22)

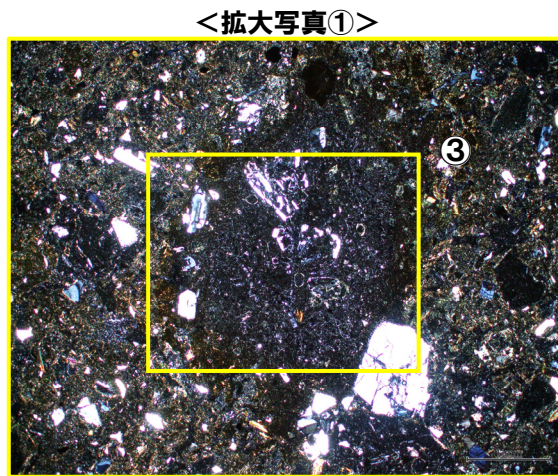
再掲(R5/1/20審査会合)



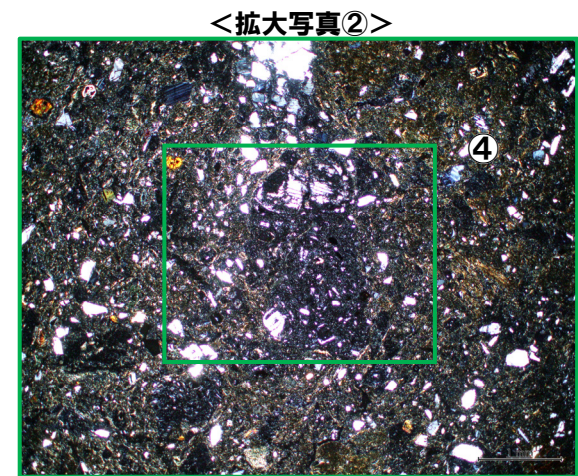
凡例
○:白色粒子



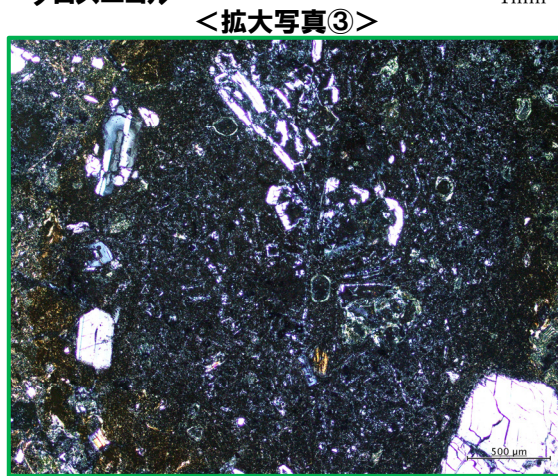
クロスニコル 10mm



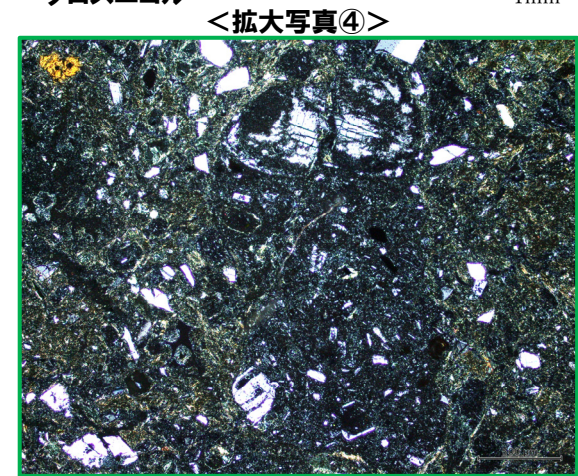
クロスニコル 1mm



クロスニコル 1mm



クロスニコル 0.5mm



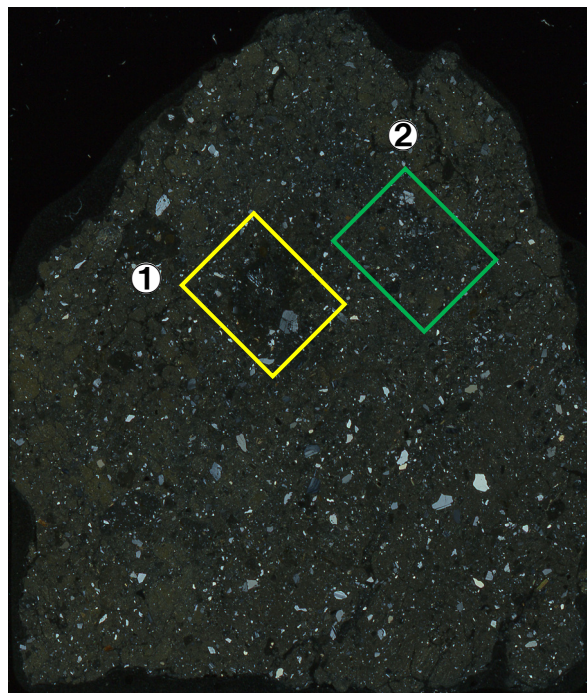
クロスニコル 0.5mm

余白

1. 4 【敷地近傍(Ⅲ)】積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング) (9/22)

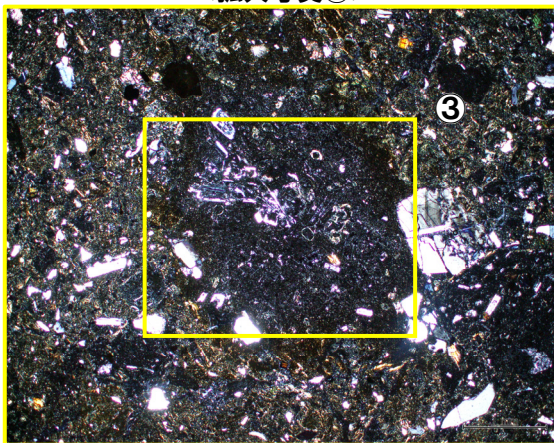
再掲(R5/1/20審査会合)



クロスニコル

10mm

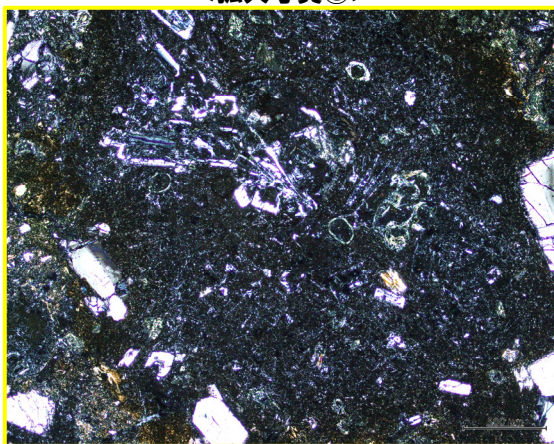
<拡大写真①>



クロスニコル(左方向に45°回転)

1mm

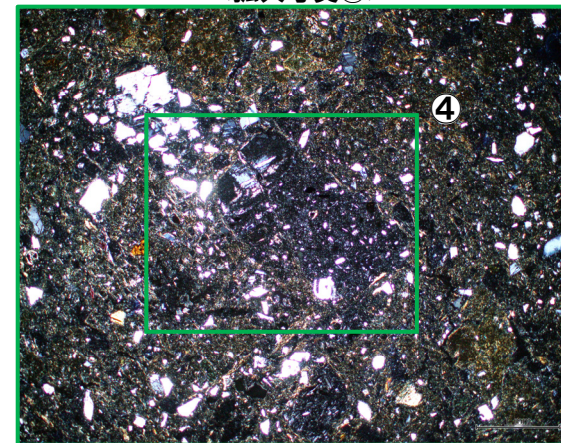
<拡大写真③>



クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm

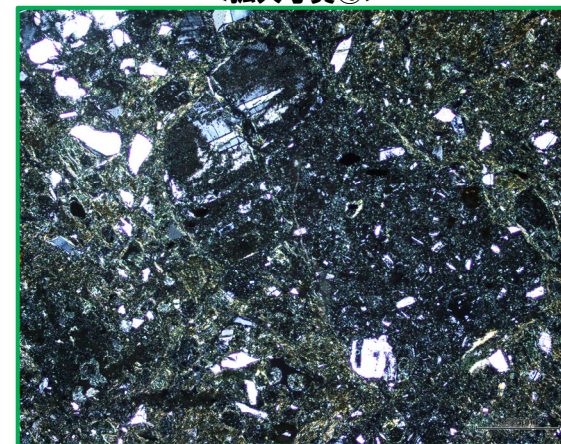
<拡大写真②>



クロスニコル(左方向に45°回転)

1mm

<拡大写真④>



クロスニコル(左方向に45°回転)

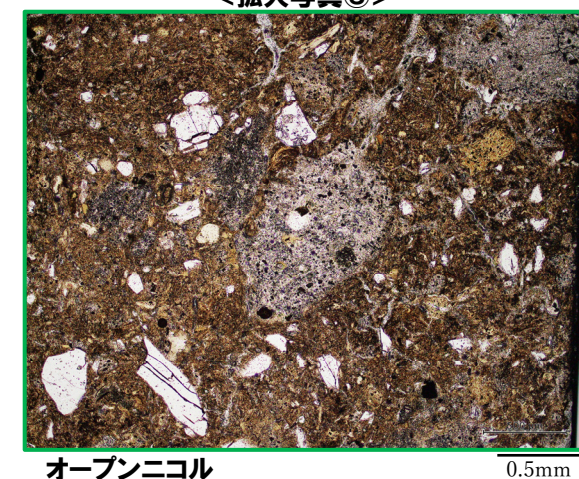
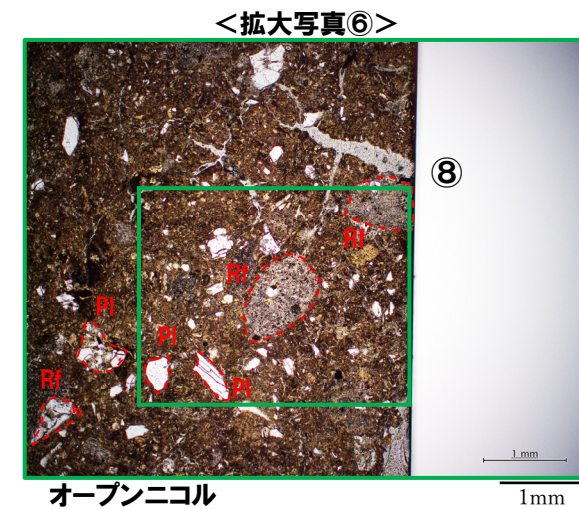
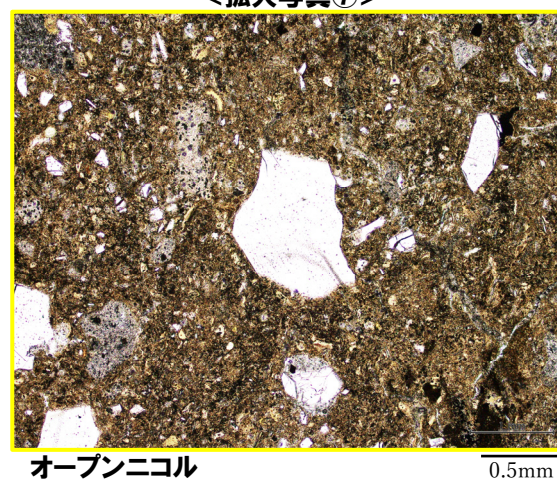
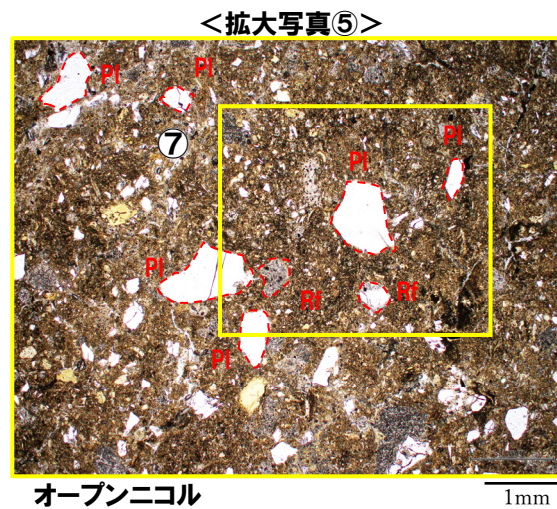
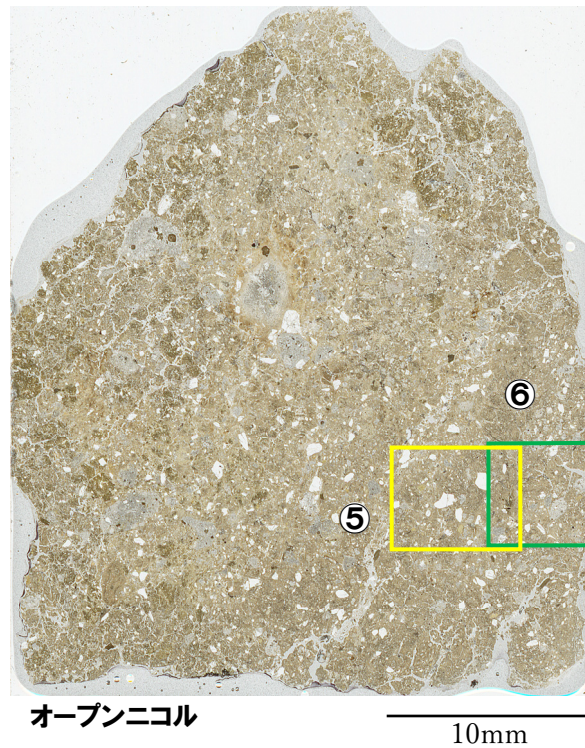
0.5mm

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(10/22)

再掲(R5/1/20審査会合)

Rf:岩片
Pl:斜長石

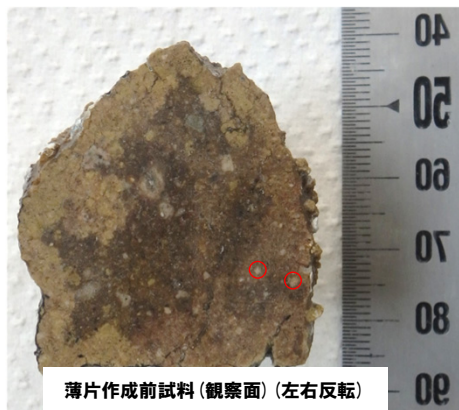
- 拡大写真⑤の約0.1cmの白色粒子に対応する粒子は、オープンニコルで無色であり、クロスニコルで低い干渉色を示し、劈開が認められることから、斜長石であると判断される。
- 拡大写真⑥の約0.1cmの白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。



1.4 【敷地近傍(Ⅲ)】積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

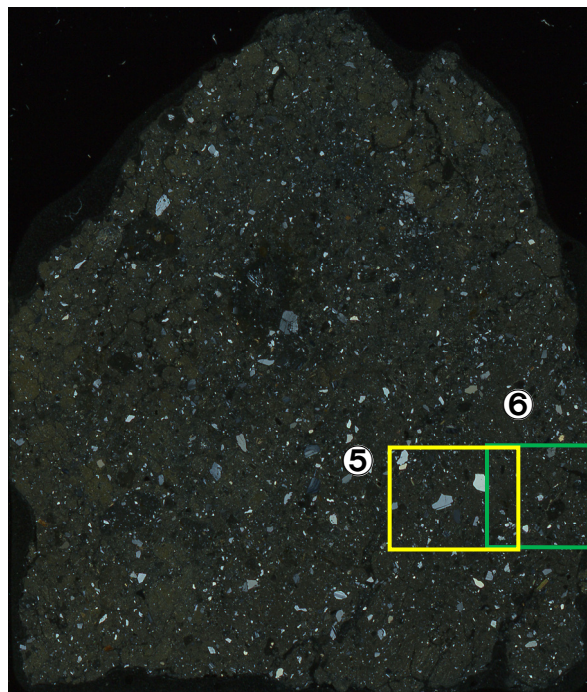
④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(11/22)

再掲(R5/1/20審査会合)



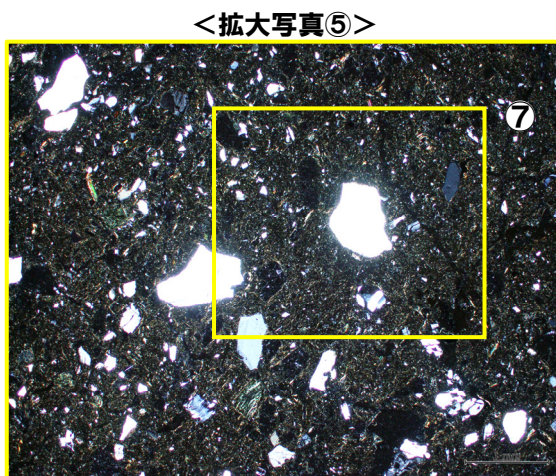
薄片作成前試料(観察面)(左右反転)

凡例
○:白色粒子

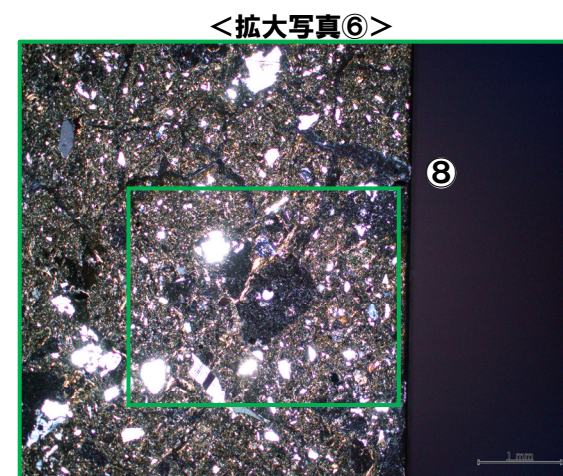


クロスニコル

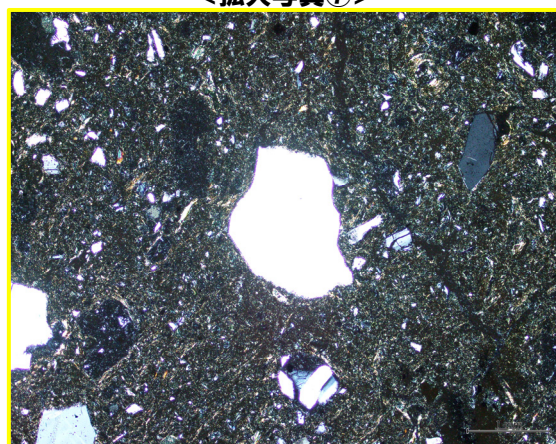
10mm



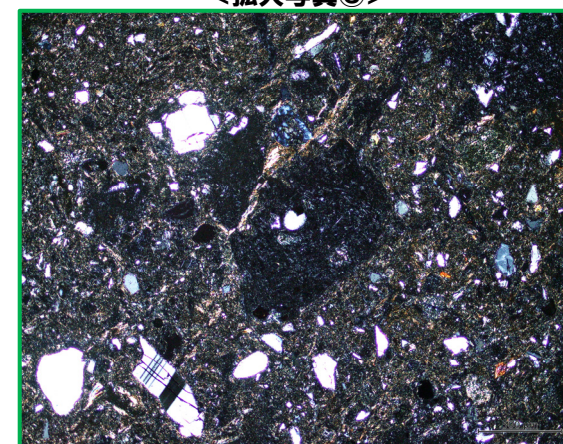
1mm



1mm



0.5mm



0.5mm

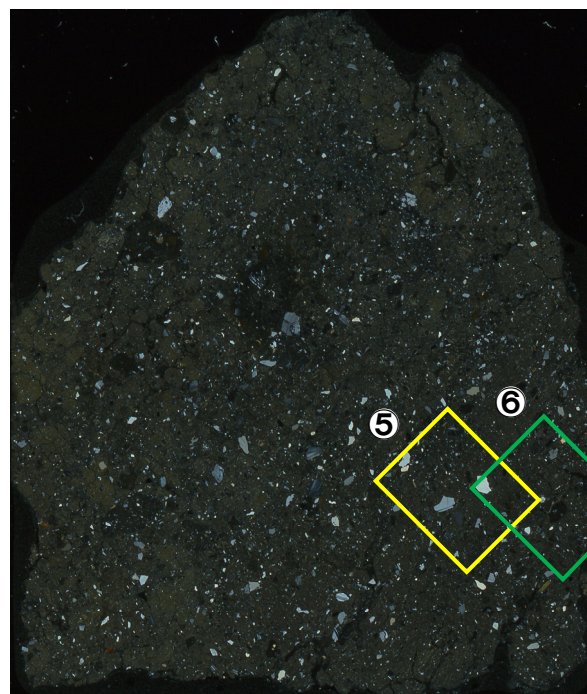
クロスニコル

クロスニコル

余白

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(12/22)

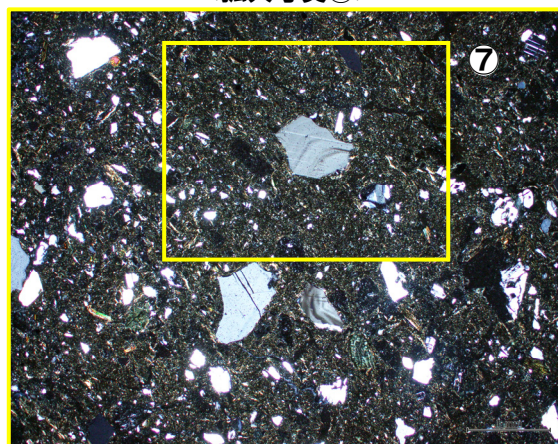
再掲(R5/1/20審査会合)



クロスニコル

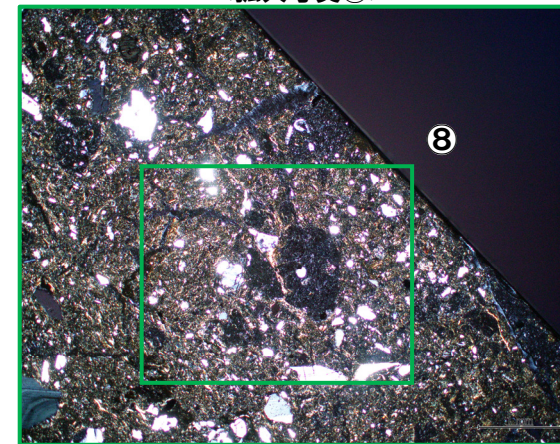
10mm

<拡大写真⑤>

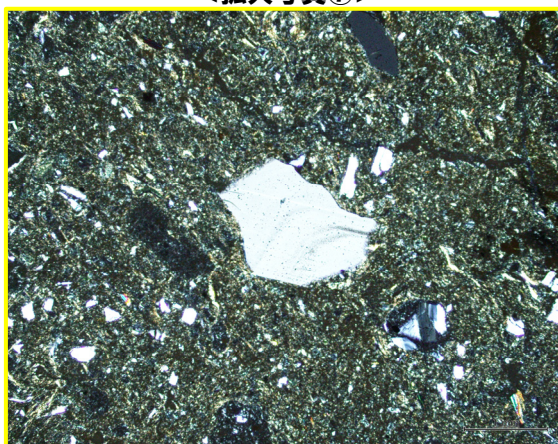
クロスニコル(左方向に45°回転)
<拡大写真⑦>

1mm

<拡大写真⑥>

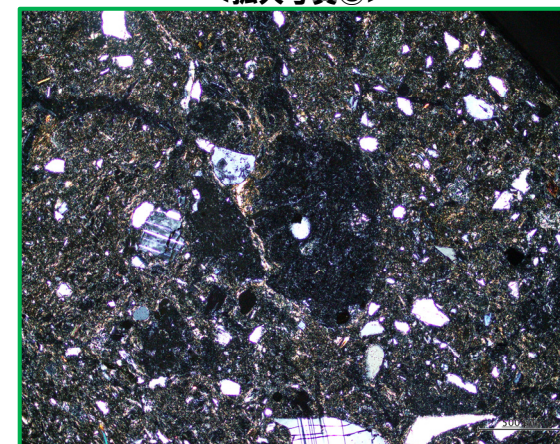
クロスニコル(左方向に45°回転)
<拡大写真⑧>

1mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

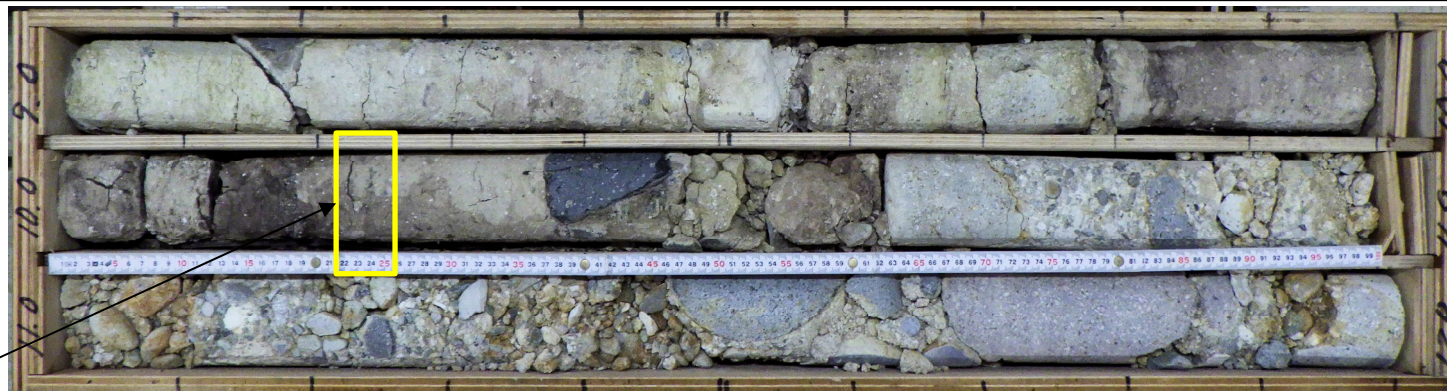
0.5mm

1.4 【敷地近傍(Ⅲ)】積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(13/22)

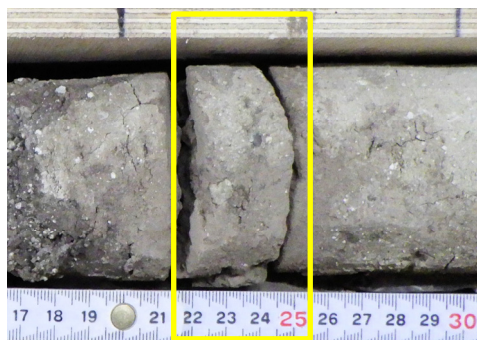
再掲(R5/1/20審査会合)

- 柱状図において、層相を「有機質シルト」としている深度9.80～10.63mについては、柱状図記事に「径0.5cm以下の軽石片、径10cmの安山岩礫が混じる」との記載がなされていることから、R3.10.14審査会合以降、コア再観察を行った。
- 再観察の結果、“軽石片”の記載に対応すると判断される白色粒子が確認されたことから、当該粒子の同定を目的とした薄片観察を行った。
- 薄片作成前の観察面において、径0.5cm程度以下の白色粒子が点在する。

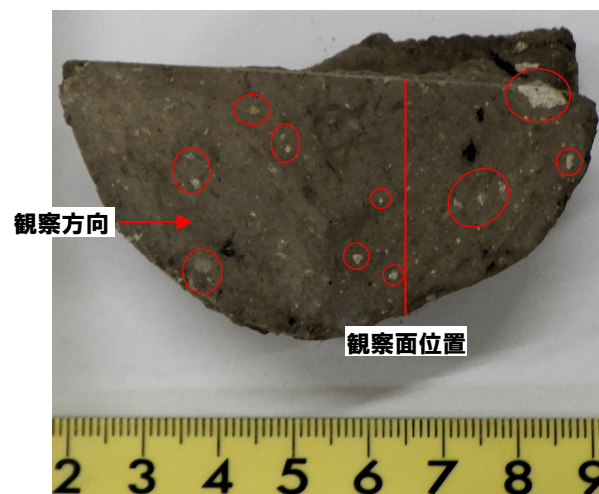


薄片試料採取位置
(深度10.22～
10.25m)

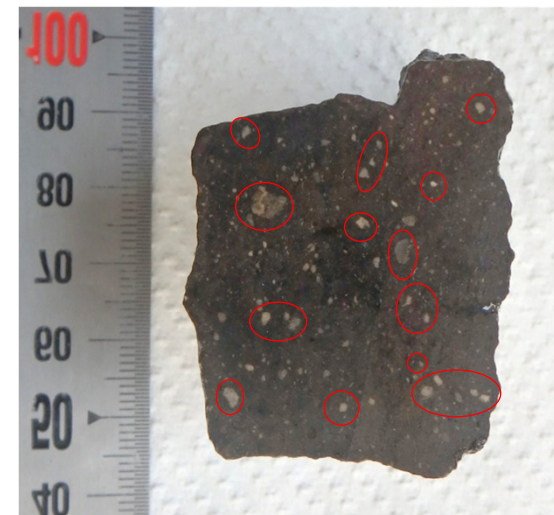
コア写真(神恵内M-2:深度9～12m)(2022年4月撮影)



薄片試料採取位置拡大



薄片試料作成前試料



薄片作成前試料(観察面)(左右反転)

凡例
○:白色粒子

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(14/22)

一部修正(R5/1/20審査会合)

【薄片試料全体の観察結果】

- 作成した薄片試料全体を観察した結果、本試料は、岩片、斜長石、石英、少量の輝石及び角閃石から構成され、軽石は認められない。
- また、有機質であり、腐植物片を少量含む。

【白色粒子に関する観察結果】

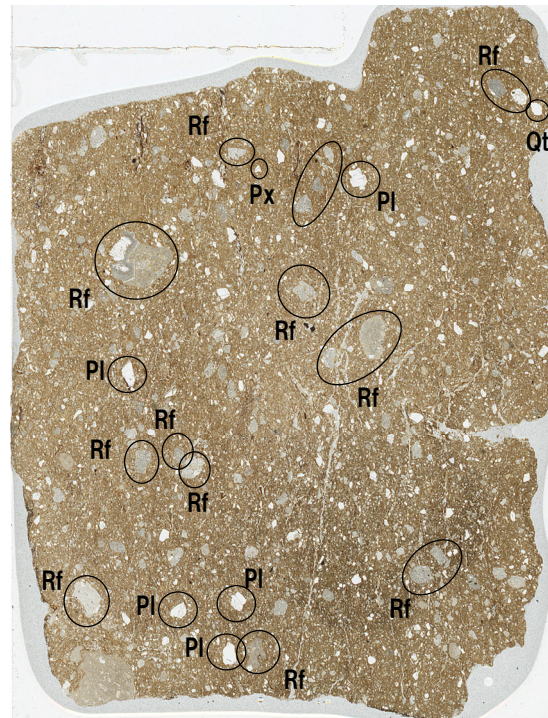
- 薄片作成前試料の観察面において確認された白色粒子と対応する粒子を対象に観察を行った結果を次頁～P377に示す。
- 観察の結果、柱状図記事に“軽石片”と記載がなされている粒子は、岩片であると判断される。

Rf:岩片
 Pl:斜長石
 Qtz:石英
 Px:輝石類



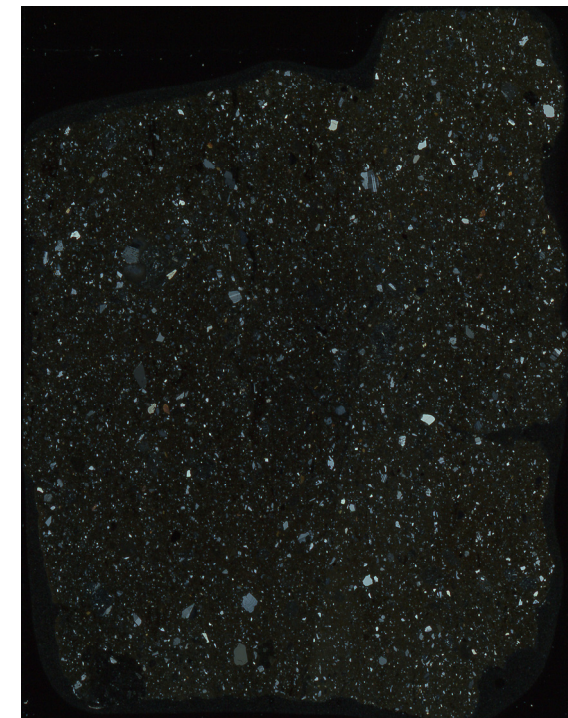
オープンニコル

10mm



オープンニコル

10mm



クロスニコル

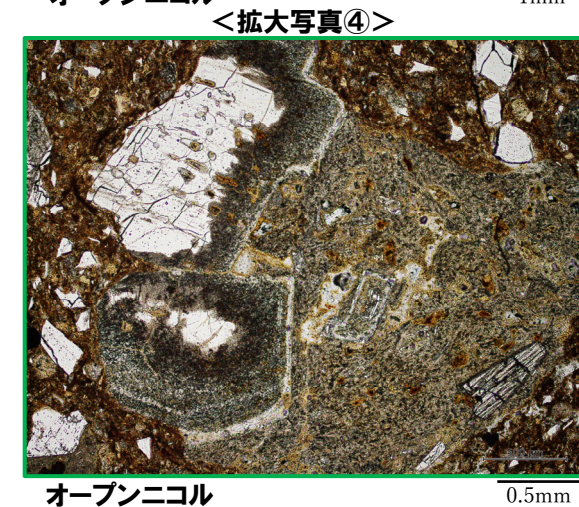
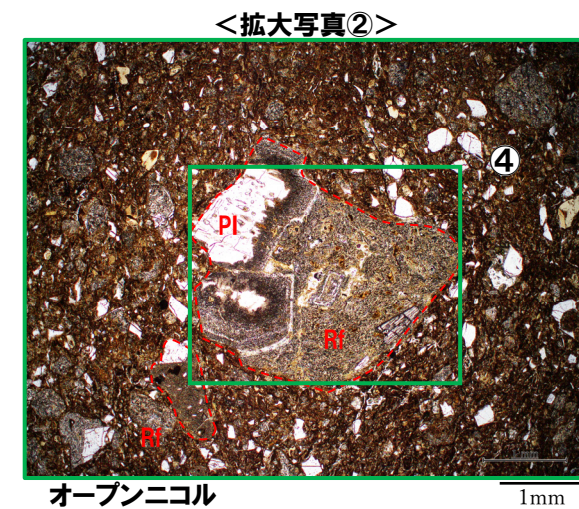
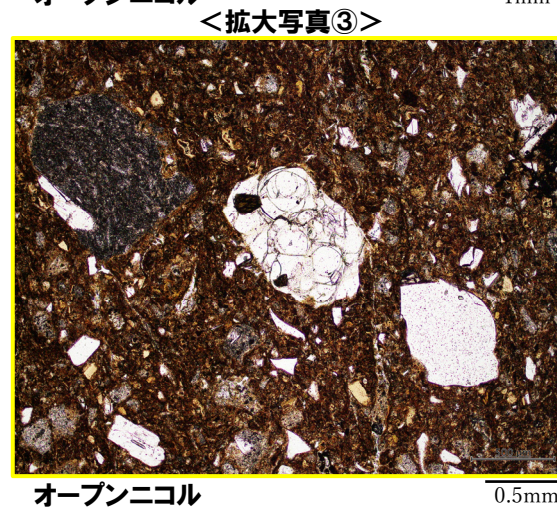
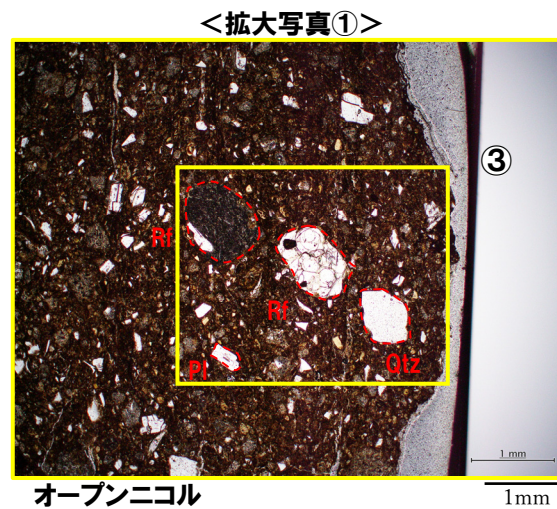
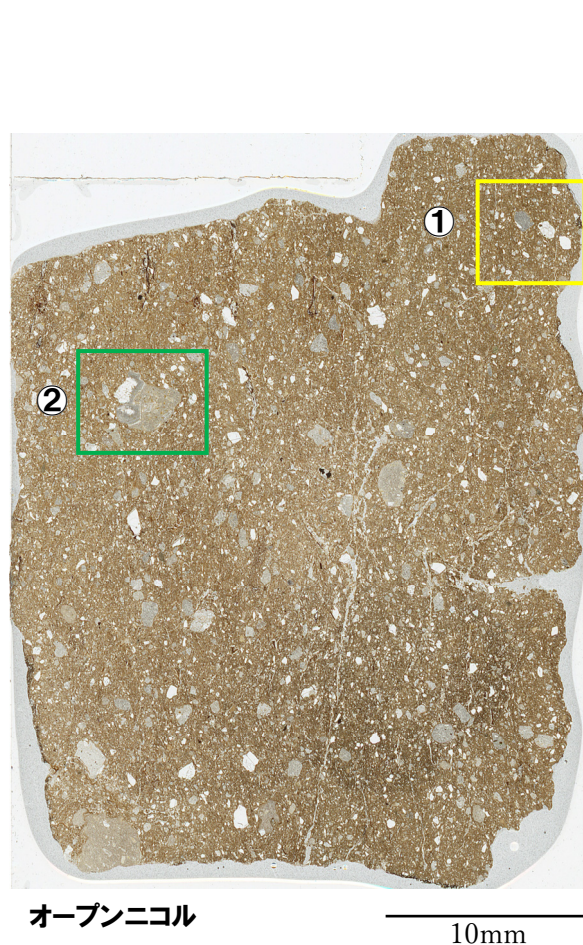
10mm

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(15/22)

再掲(R5/1/20審査会合)

Rf: 岩片
Pl: 斜長石
Qtz: 石英

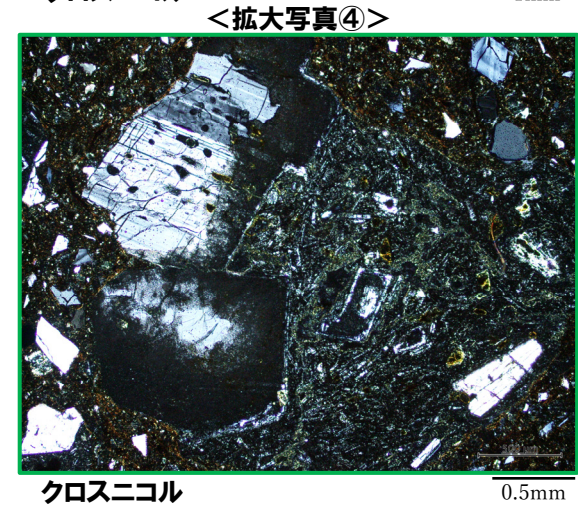
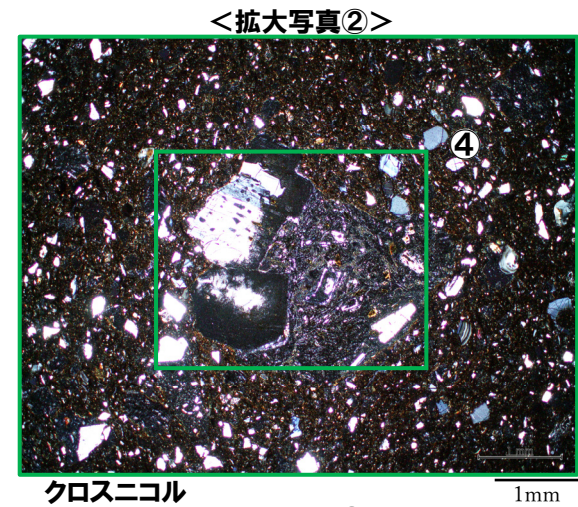
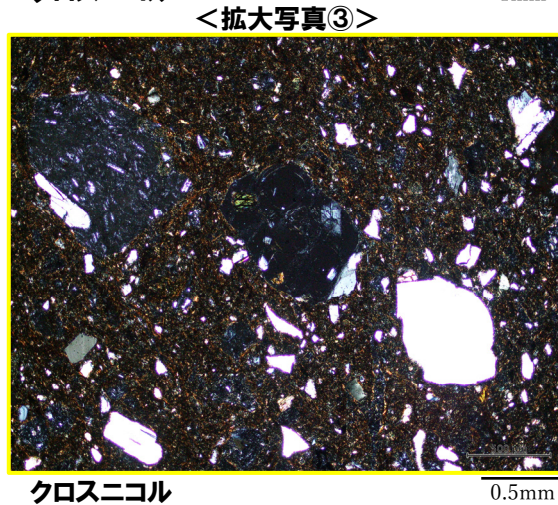
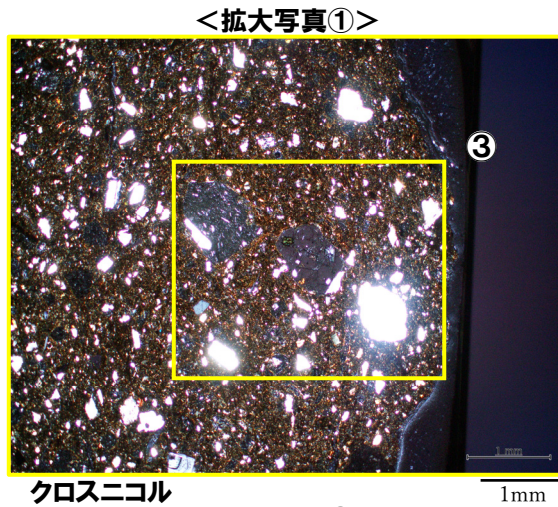
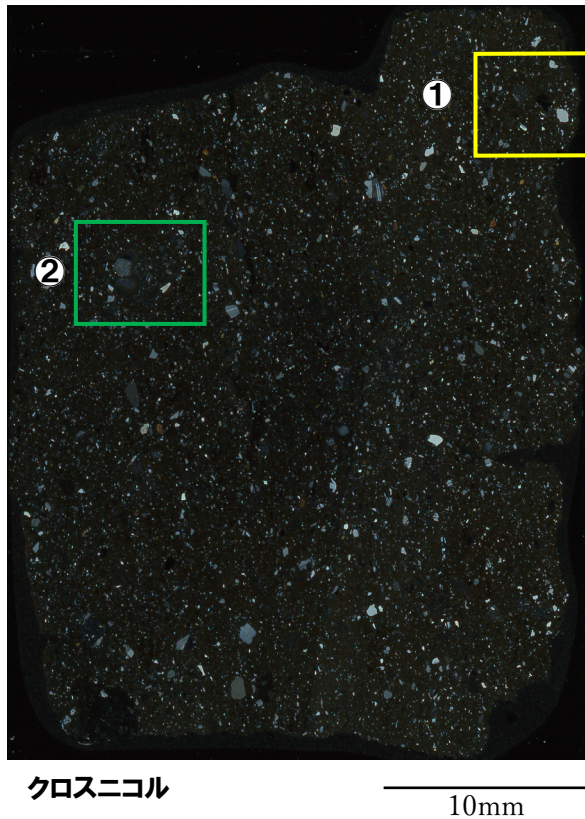
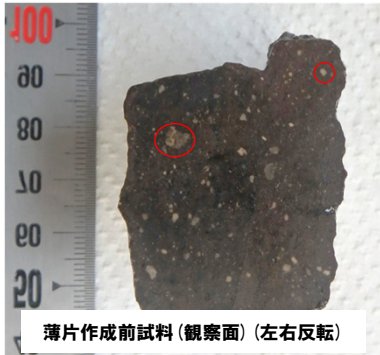
- 拡大写真①の約0.1cmの白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。
- 拡大写真②の約0.3cmの白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。また、当該粒子中において特に白色が顕著な箇所においては、斑晶である斜長石が認められる。



1. 4 【敷地近傍(Ⅲ)】積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

④-4 古宇川右岸地点(神恵内M-2ボーリング)(16/22)

再掲(R5/1/20審査会合)



余白